

# 領収書

2015年11月17日

西崎翔 様

平素は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。  
下記の金額正に領収いたしました。  
何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社プリントパック

〒617-0003

京都府向日市森本町野田3-1

TEL 0120-977-920

FAX 075-935-6890



お支払条件 クレジットカード

納品場所 ご指定場所

御請求金額 9,195円 (税込)

納品期日 7営業日

ご注文番号	内 容	数量	単 価	金 額
PAC9172702	品名：レポート3号 A4 / 両面4色 / コート90 / 3,000部 / 加工1：巻三つ折り 加工2：	1	9,195	9,195
合 計				9,195

## 特記事項

※クレジットカード決済の場合には、金銭または有価証券の受領事実がありませんので、表題が「領収書」となっても、

印紙税法基本通達代17号の1文書には該当しません。

※5万円を超えていても収入印紙は貼付されません。

【目黒区議会議員 西崎つばさの政務調査報告】

第3号

# 西崎つばさ レポート

2015年11月16日発行 編集部：〒153-0051 目黒区上目黒1-17-6-202 民主党東京都第5区総支部内  
TEL 050-3715-0283 FAX 03-4330-1880 MAIL office@n283.com



## お金の使い方は4種類あります。

(※ 詳しくはウラ面に記載)

「議会が無いときは何をしてるの?」と聞かれることがあります。区の事業等の調査・研究を進めたり、外部の勉強会やセミナーに参加したり(時には運営したり)しています。むしろ、開会中よりも忙しく感じます。

さて、手探りで始めてから4か月かけて、第2定例会での一般質問についてご報告してきましたが、今号で一段落となります。最後にご紹介する内容は、蓮舫議員のもとで学んだ行政改革に関してです。

### ■「事務事業見直し」の検証結果

もう多くの方がご存知のように、リーマンショック後の2009年、目黒区の税収は前年より100億円も落ち込み、ただでさえ少なかった区の貯金が底をつきそうな事態に陥りました。

これを受けた緊急財政対策の一環として、事務事業の見直しが実施され、事業仕分けのように「廃止」や「縮小」といった判定を行って、約135億円(当時の予定額)の支出を削減することになりました。

そして、この取り組みの最終年である昨年度、これまでの検証が行われ、結果が公表されました。

### ■ ゾンビとは言わないが・・・

この検証結果の詳細は区サイト等でご覧頂けますが、私の切り口は、財政が持ち直すことに伴って行政改革が後退しないのか、という点です。

4年前の評価で「廃止」と判定されたのは58事業。そのうち5件は今回の検証で評価が変更され、新規1件、拡充2件、継続2件となりました。社会情勢に鑑みて判定を変更するケースは理解できますが、それには明確な理由が必要だと思います。

例えば、商店街活性化事業。「廃止」から「新規」へと評価が変更され、復活。今年度の予算に約1000万円が計上されています。当該予算編成シートを見ると「要望が強い」ことが強調されていますが、それだけで予算を投入していったら、行政は肥大化する一方です。

類似の事業を行う経済産業省や中小企業庁では、売上高や空き店舗数、通行量の改善などを成果目標として挙げています。このように、後に測定できる指標を明記することで政策の検証が可能になり、効果が薄いと判断された事業を削り、より有効な用途へ税金を投入することができると思います。

### ■ 不断の行財政改革?

さらに今回は、平成24年以降の新規事業109件が新たな評価対象となりました。これをスリム化の観点から見ると、廃止7件、休止2件、縮小3件です。しかし、これらの中身を見ると、大鳥中の開校や田道住区分室の開設といった、既に役割を終えた事業であるとか、単年度もしくは時限的なものばかりです。つまり、直近の新規事業を見直して削るということは、ほとんど出来ていないのです。これでは行革に後ろ向きだと言われても仕方ありません。

そもそも区は「財源不足に陥るのを回避する」という姿勢でしたから、必然的に、財政健全化の兆しが見えればコスト削減の手は鈍くなります。しかし、自ら「不断の行財政改革に取り組んでいく必要がある」と総括しているのですから、財源確保のメドが立ったから良しとするのではなく、引き続き厳しく事業を見直していかなければなりません。

### ■ 今後の課題

質問の最後に、行政評価制度を提案しました。ケガの功名ですが、今回の見直しシートは優秀です。折角ですから、これを基礎として評価制度を構築すべきだと思うのですが、残念ながら区にその意向はありません。

一方、行革計画では公会計制度と連携した行政評価を検討するとしています。であれば、税金の使われ方をチェックしやすくなるよう、効果的な仕組みを研究する必要があります。「検討の結果、見送ります」ということがないよう、私も繰り返し進捗を確認して参ります。

皆さまのご意見をお寄せ下さい! office@n283.com

西崎つばさ  
プロフィール

31歳、1児の父。円融寺幼稚園、向原小、九中、都立青山高校、東京外語大英語科卒業。目黒雅叙園に勤務後、手塚よしお秘書。その後、蓮舫秘書。2015年4月、目黒区議選初当選(2位・最年少)。生活福祉委員会所属。

## 図解 目黒区の行政改革は？

### ■ 平成 23 年度「事務事業見直し」

( 計 830 事業のうち、  
58 件が「廃止」  
という判定 )

うち 5 件の判定が変更。

### 平成 26 年度「検証」では

「新規」へ変更 1 件  
「拡充」へ変更 2 件  
「継続」へ変更 2 件

たとえば…

- ・商店街活性化事業（廃止→新規、約 1,000 万円）

平成 23 年度

「当該事業は、代替制度の活用や予算をかけない執行方法へ見直すことにより事業継続が可能のため、区民への直接的な影響も少ないことから、部局における検討結果を踏まえ、補助を廃止する。」

平成 26 年度

(H27 予算要求)

「24 年度からの休止以降、店舗→商店街→区商連を通じて復活の要望が強い。」  
(?)

→ 「実施で得られる具体的な成果」には、「商店街組織の活性化意欲を継続・発展させ、活力ある商店街・地域とするための支援を行い、商店街の事業意欲・住民満足度の向上を図る」とある。もっと検証可能な成果目標を設定する必要があるのでは？

### ■ 平成 24 年～ 26 年の新規事業の評価

計 109 事業のうち、  
( 「縮小」 3 件  
「休止」 2 件  
「廃止」 7 件 )

その中身は、「大鳥中学校の開校」や「田道住区センター三田分室の開設」、「美術館の工事」など、既に役割の終わったものばかり！

→ 本当に「不断の行財政改革に取り組んでいく」のか？



## 4種類のお金の使い方とは？

誰のために

米国の経済学者ミルトン・フリードマン (1912-2006) が、共著「選択の自由 (1980)」で述べている説です。彼は、お金の使い方を次の 4 種類に区分しました。

- ① 自分のお金を自分のために使う
- ② 自分のお金を他人のために使う
- ③ 他人のお金を自分のために使う
- ④ 他人のお金を他人のために使う

誰のお金を

	自分のため	他人のため
自分のお金	① 節約しつつ最大の価値を求める	② 節約するが価値は気にしない
他人のお金	③ 節約せずに最大の価値を求める	④ 節約せず価値も気にしない

この中で、最も節約せず、お金で得られる価値も気にしないのは④であり、それが政府の支出であると指摘しています。ここからケインズ政策の批判に発展する訳ですが、それはさておいても、行政の本質を突いた言葉ではないかと思うのです。

役所の職員に優秀な方が揃っていたとしても、他人のお金である税金を、他人のための予算として執行する構図が変わることはありません。よって、無駄な予算や非効率的な使われ方が生まれやすい。これは誰のせいでもなく、構造的に仕方のない問題なのです。

だからこそ、常に行政を監視し続ける議員が必要なのでしょう。目黒区の行財政改革がストップしてしまうことのないよう、今後も抜かりなくチェックして参ります。